小學修身讀本

鈴木貞治郎編輯

一

大日本教育會書籍館
一八函 四架 一〇〇號 四冊
函 架 號
690
K 110.1
159
1
B 1
188

鈴木貞治郎編輯

小學修身讀本

明治十五年八月
廿八日版權免許　萬笈閣藏

小學修身讀本一

緒言

此ノ巻ハ。小學初等科第一年前期生ノ課業ニ。供スル目的ヲ以テ。纂輯シタル者ナリ。易キヨリ。難キニ入ルハ。教育ノ主義ナリ。今コノ主義ニ從ヒ。本巻ノ躰面ハ。平易ナルヲ。

東京大学

専一トシテ文ヲ行レリ。
巻中長短章相雑ルト雖モ實
地授業ノ際當任者宜シク酌
量シテ適宜ニ之ヲ授クルヲ
要ス。

編者誌

小學修身讀本一

鈴木貞治郎輯

第一 人道

人の性は善なり　孟子

善性をまもるこゝを人

の道といふ

○人の禽獸に異なるはこの道あるがゆゑなり

○人道は身を修むるを第一とす

○身を修むるとは行ひを正しくすることなり

○正しき行ひは世の好むところなり

○正しき行ひは人は世の愛をうけて生涯安樂にくらすことを得るなり

第二

學問

○玉琢かざれば器を成さず。人學はさまざまの道を知らず。禮記

○人は生れながらに知る者に非ず教を受けて道を辨まへ正しき事に就き正しからざる事を避くべし。

○幼少の時より學問をつとむるは猶田地ふ穀物の種をまくごとし後には必

ぞ良き穀物の實を得らるべし

○學問は勉強をるを專一とす

○むかし漢土に匡衡といへる人あり深く學問をこゝ

よめども家貧しきがゆゑに人の家に傭はれて日ぶ。はたらきわが思ふほど學問をなさいとまなくされど學問を勤むるの念をこしも撓まず夜中油をかふ

こと能はざるゆゑに壁を穿ちて鄰家の燈光を引き書を讀みしといふ。

匡衡壁ヲ穿テ隣家ノ燭光ヲ引テ勉学ノ図

この人かく勉強したれば後に丞相といふ高き位ふのぼきぞ

○學問をするには忍びこらゆること肝要なり

○何ほど難き學にても倦

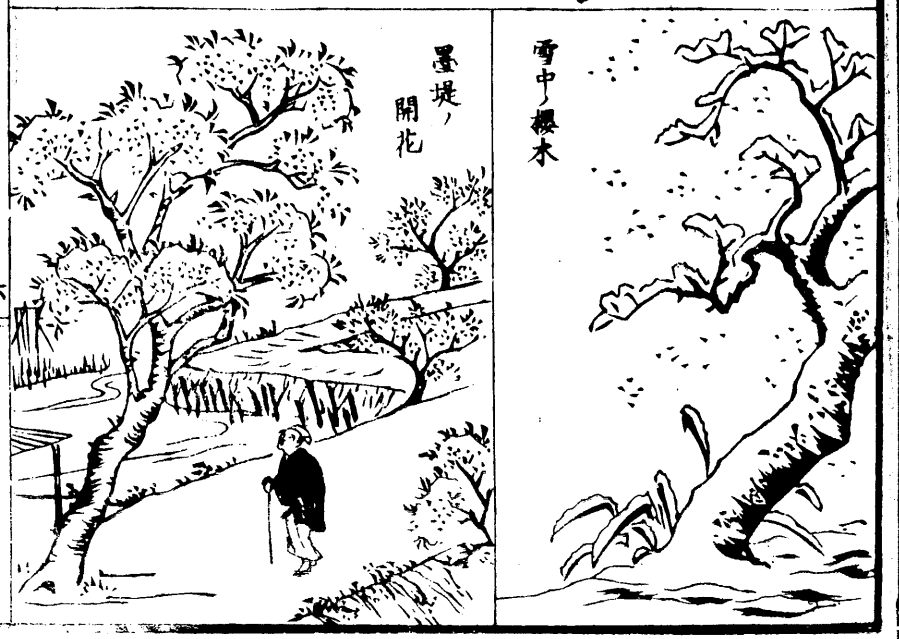
まゞ撓まぜして勉むるときはつひふ其功あらはれて上達するにいたるべし

○櫻はわが國の名木ふれど寒き冬の風雪をへざれば義しき花のひらく春ふ

あはゞ

○小野道風といへる人初は無學無筆ふ至しが

ある時路を



行きしに一の蛙柳の葉にをぢのほらんとして幾度とふく仕損じがなほも撓まずして畢ふよづることを得しを見て大にこれを感じ我まことの志をはげまして學を勤め書を習ひつひふ名を天下にあらはすにいたるしと我

○大和俗訓といへる書に學問に有用ゑ學あるを無用の學あり有用の學とは學

問をもきば我ためへ益となるをいふ故ふ學問の道は有用の學を爲もべし無用の學をおすべからざと見へたり

第三

孝悌

○夫れ孝は萬善の本なり。

○孝とはもと父母につかふるをいふ

○悌とはもと兄長につか

ふるをいふ

○孝の道は父母の心を安からしむるを第一のつとめとす

○父母の身をよく敬ひ養ふを第二のつとめとす

○父母の我をやしなひそだてたる恩は山よりも高く海よりも深し故に片時もそれ恩を忘るべからず

○朝夕顔色をやわらぎて父母ふつかへかるそめみ

もこゝろをからぬ氣色を
あらはすべからず
○起き臥するときはまづ父
母を拜すべし
○外に出るときは必ず行
く所を告ぐべし

○家に歸るときは必ず父
母にまみゆべし
○父母の命は決してさか
らふべからず
○父母疾あるときは晝夜
側ふ侍りて養ひまゝるべ

○むかし福依賣といへる女子ありそれ性いたりて孝ありて家貧しきがゆゑに日〻人に傭はれてづかの賃錢をとりてよく父母を

養へり父久しく病に臥せしかばこの女子片時も側をはなれず心をつ

くして介抱しそこしめ暇あるときは傭はまて働き二十余年の長き間日夜苦勞し、かば美しき顔容(はち)かはまて見るかげもなく痩せおとろへたりされどま

すゝ孝をつくし家ふあるときは行儀作法正しくそべて父母を敬ひ尊びしかば鄉人等深くこの女子を譽めそやしまゐるとぞ。

○祖父母は父母の親なれ

ば父母ふひとしく孝をつくすべし

○祖父母年老いて病にかゝるときは父母病ある時のごとく懇ろ看病すべし

○兄弟姉妹はえと同胞にして同じ家ふ生きて生長したるふれば互ひに睦しくすべし

○兄弟は手は指のごとく永くたちはふすべからざるふり

○兄と姉とは敬ひ重んぜべし

○弟と妹とは親しみ愛すし

○兄弟の互ひに睦しきは父母の心を樂しまむるもなり

○父母の心を樂しまむるは孝子の父母の心を憂へしむるは不孝なり

○我親族はみな先祖を同じくし本を共ふしたるも

のるまば伯叔父母等はいふまでもなくその外の族人まですべて親しみ睦しくすべし

○我身はそなはち父母の身るるとこてろえこれを毀ひきずつけざるは孝の始るり

○養生は孝行の一端なる

○父母の愛するところは己もまたこれを愛そべし

○父母の教はみる我がた

めを思ふなればつゝしみてその命にしたがふべし。こまゝふしたゞのふを孝順といふ

○不順のゝは多くは自からの禍をまねくものなり

○身を立て業を成して譽れをあぐるは父母の名をあらはすかりこれを孝の終とす

○教師は我れ小物事ををしへさづけ我れをみちびきて

良き人とふらしむる。恩人なれば。父母につぎて。尊敬をべし

○師の教に。背くことなかき

小學修身讀本一終

明治十五年八月廿八日版權免許
同　年　九月　出　版
編輯人　千葉縣平民　鈴木貞治郎　上總國山邊郡土氣町六拾九番地
出版人　東京府平民　江嶋喜兵衛　東京日本橋區本石町貳丁目九番地

小學修身讀本

鈴木貞治郎編輯

二

乙76
4
690

大日本教育會藏書

一八函
四架
一〇〇號
四冊

東京帝國大學

K110.1
90
2